

## 第2部門A 郵便史・日本

### 朝鮮での日本郵便 1884～1912

しのざわ としゆき  
篠沢 敏行 (愛知県) ⑤

1876年日本と朝鮮の間に日朝修好条約が締結され、これにより日本は釜山に居留地を獲得した。この釜山と日本間の郵便物交換の必要が生じ日本郵便局が設置された。この朝鮮半島における日本郵便の歴史を一部の旧韓国郵政郵便物を交えて作成しました。年代では明治期(一部大正期含む)を中心に展示しました。

### 朝鮮での日本郵便 1884-1912

1876年(明治9)日本と朝鮮の間に日朝修好条約が締結され、これにより日本は釜山に居留地を獲得した。この釜山と日本間の郵便物交換の必要が生じたが当時の朝鮮国には近代郵便はないので在朝鮮日本郵便局が設置された。その後は1880年に元山埠、1883年に仁川港、1888年に京城と各地に設置されていった。朝鮮郵政は1895年に再開されたが1905年の日韓通商航海条約によって日本郵便に接収された。その後は1945年8月の日本敗戦まで朝鮮半島では日本郵便が郵便業務を担当した。この朝鮮での日本郵便の歴史を明治期に限って(一部大正期含む)消印の変化を中心として展示いたしました。

1876年(明治9) — 1912年(明治45)

年	運用通種	年	運用通種
1876	朝鮮釜山山麓開港 DK	1897	大韓帝国内改 匿名種面
1880	朝鮮釜山元山開港 DK	1900	朝鮮加取切手発行
1882	朝鮮釜山仁川港開港 DK	1904	日露戦争
1887	日本郵便局に東京支店 JNS	1905	日韓通信業務合商
1898	丸一郵便局 釜山朝鮮	1905	臨時郵便所開港
1899	元山英文日付印使用開始	1905	臨時郵便所開港
1899	英文中型年号4号使用開始	1906	郵便印使用開始
1892	二重丸印使用開始	1906	英文郵便印使用開始
1894	日露戦争	1908	韓国郵便印使用開始
1894	英文中型年号2号使用開始	1908	英文郵便印朝鮮型使用開始

注目すべきマテリアル

リーフ番号	マテリアル
4	朝鮮釜山仁川港 二重丸型印 DK
5	朝鮮釜山仁川港 二重丸型印 DK 書留
7	朝鮮釜山元山埠 二重丸型印 JNS
11	朝鮮釜山 丸一型印 書留
14	英文印 仁川 中型年号2号印
18	朝鮮郵便局 年号 丸一型印
28	私製はがき 朝鮮加取1銭5厘
41	日露戦争 第十二師団
52	日韓コンビネーション
60	臨時郵便所 丸二型 大書

主要参考文献「近代朝鮮郵便史」水原明彦、「朝鮮郵便史」井上和孝、郵便消印百科事典「山崎好是」「日本郵便印ハンドブック」日本郵政協会、「朝鮮半島に於ける日本の消印」中野健司「外国郵便ハンドブック」西野良雄、「日本切手百科事典」水原明彦、「軍事郵便」日本郵政協会「明治中期の朝鮮郵政と郵便」立山一馬

### 朝鮮での日本郵便 1884-1912

在朝鮮日本郵便局 仁川港開局

仁川港開港は朝鮮側の反対が強くなかなか進みませんでした。その後日本側の強硬な圧力のため、条件付きで1882明治15年に開港を承認しました。明治16年12月16日に開設告知が有り、1884(明治17)年4月1日に領事館内にて開局しました。

1884年11月14日 仁川港一級河 waterfront 11.25 DK  
封筒料金 2銭 郵便日丸配達

### 朝鮮での日本郵便 1884-1912

日露戦争の特発 第十二師団

三国干渉によって日本の漢州地区進出を阻止したロシアは漢州を独占し、さらに朝鮮半島進出をはかった。これに反対する日本は数回の交渉をするが不調に終わり、1904(明治37)年2月10日に露戦が布告された。2月に第一軍の第十二師団が仁川に上陸し月中旬には平壤まで進め、鎮南港から上陸した後の朝露と衝突した。

第十二師団 第五野戦局  
1904年3月22日 平壤一信濃書料

なお第十二師団郵便物は3月19日に韓国駐新軍に改称されたが新日付印が譲渡されなかったため自分のあいだ第十二師団の日付印が使用された。尚、軍事郵便は差し出し制限のない無料となった。

### 朝鮮での日本郵便 1884-1912

配達証明

1892(明治25)年5月16日配達証明郵便物が実施された。内地での使用も少なかったが朝鮮での使用は珍しい。

韓國元山  
1903年3月9日 元山一周防平生  
料金16銭  
6銭(2倍重量)+書留7銭+配達証明3銭